

介護の基本理念

(Sprri:スウェーデン医療計画合理化研究所 1979)

1. ノーマライゼーション(生活の継続性)
2. 人格の尊重
3. 自己決定
4. 影響と参加
5. 人格の総合的把握
6. 活性化(残存能力の活用)

外山義「クリッパンの老人たち」ドメス出版p116,p185参照

1 ノーマライゼーション(normalization) 〈生活の継続性〉

- 「高齢者も社会を構成する他のグループと同等の権利を有することを出発点とし、どのような医療や福祉のニーズをかかえた状況であっても、特殊な環境のなかに放置せず、できる限り通常的环境や生活条件の下で過ごせるよう努めるべきこと」

外山義「クリッパンの老人たち」ドメス出版p116,p185参照

- バンク・ミケルセン「知的障害者にできるだけノーマルに近い生活を提供すること」
- ニーリエ「知的障害者の日常生活の様式や条件をできるだけ社会の主流となっている規範や形態に近づけるようにすること」
- ウォルフェンス・ベルガー「できる限り文化的に通常の人間の行動と外観および理解を確立(あるいは保持)するため、できるかぎり文化的に通常となっている諸手段を利用することである」

■ インテグレーション(integration)

- ①利用者が差別を受けることなく、地域社会と密着した中で生活できるように支援すること。
- ②障害を持った人が、日常生活に支障をきたさないように、地域住民、関連機関・団体が中心になって問題解決に当たること。

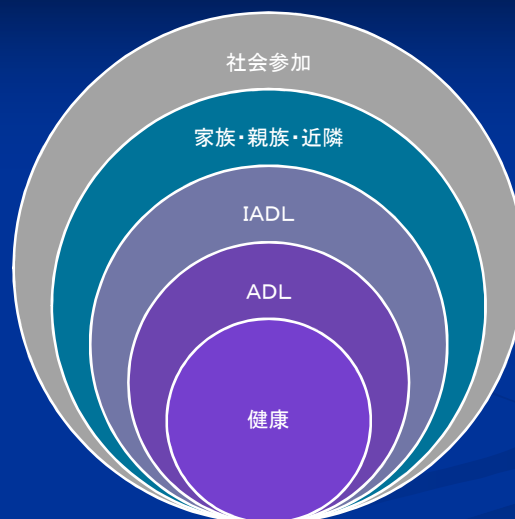
■ インクルージョン(inclusion)

「包摂」、「包含」を意味する。

障害の有無、種別や能力にとらわれることなく、すべての子どもを通常の学校教育に包摂し、その上で一人ひとりに必要な援助を保障すること。1980年代にアメリカの障害児教育の分野で急速に広まった考え方。

- 統合：インテグレーション (integration)
まず、障害のある人とない人を分けて上で、その統合を進める。
- 包括、包摂：インクルージョン (inclusion)
誰でも、ユニークな存在であり、一人ひとり違うことが当たり前という前提で、すべての人を包み込む

生活構造と自立・尊厳・共生



2 人格の尊重

- 高齢者自身の人格を尊重すること
 - ・在宅介護の場合、本人へのケアと家族介護者の介護負担の軽減が社会的支援の目標になるが、家族の要望に応えることがケアプランとなってしまう傾向がある。
 - ・利用者の「生活の技法」の尊重
 - ・利用者のその人らしさ(アイデンティティー)の尊重

居場所(property)とは

・居場所

「人などが住んでいるところ、居どころ」

日本国語大辞典 小学館

・property

①財産、資産、②地所、建物、③固有性、属性、④作品、⑤俳優、選手
ランダムハウス英和辞典 小学館

物理的環境	人的環境
個室(プライバシー、私物)	個人のお気に入りの過ごし方
住み慣れた住居	家族や親近感のある関係
地域の見慣れた自然風景・街並み	社会参加

個人のアイデンティティーは歴史的連続性と地域社会とのつながりのなかで、守られている

3 自己決定

- 自己決定と自己選択

- ・自己決定(自己意志) → 主体的 個別的
- ・自己選択 → 受身的 画一的

- 自己決定の条件

- 1) 複数の選択肢が用意されていること
- 2) 情報が適切な方法で提供されること
- 3) 熟慮できる状況が用意されること

自己決定の積み重ねの上に尊厳のある生活が実現される

主体的・個性的な生活とは

現役時代のワークライフバランス

高齢期における生活の継続性

職業
生計の維持
個性の発揮(知識、技術、創造性)
役割の実現(社会貢献)

家事

育児・介護

余暇
休息
ストレス解消、暇つぶし
活動
(人間的な連帯の増進)
自己開発
(親想、学び、創造性)

年金
生計の維持

社会的役割の喪失

家事

介護

余暇
休息
ストレス解消、暇つぶし
活動
(人間的な連帯の増進)
自己開発
(親想、学び、創造性)

引きこもり

4 影響と参加

専門職による

ケアの対象の決定
ニーズの決定
ケア内容の決定
ケア方法の決定
ケア提供者の決定
自立方法の決定

利用者
を
無力化

「影響と参加」
常に利用者の
意向に基づいた
ケアにする

- 「ケアを行う専門職とは、本質的に人々を無力化するものだ」 イバン・イリイチ「脱病院化社会」1998晶文社

5 人格の総合的把握

- 利用者を病気や障害にかかわる問題(トラブル)の対象として決めつけず、全人的に把握し、理解すること。
- 日常生活を営む上での、個々の課題を捉えつつ、生活全体としての活性化を目標とする。

Problem oriented
課題志向

goodness oriented
長所・善性志向

goal oriented
目標志向

6 活性化(残存能力の活用)

例(摂食動作)

- 介護の基本は、利用者の失われた能力や低下している能力は補い、現有能力は活用すること。
- そのためには、介護者は食事、排泄、更衣等の完全に自立した生活動作を把握していることが前提となる。

- 1 食事をとる姿勢を保つ
- 2 食物や食器を目で確認する
- 3 箸やスプーンを把持する
- 4 食物を口に運ぶ
- 5 咀嚼する
- 6 嚥下する

■ 介助方法

- ・介助
- ・自助具
- ・住環境



活性化

活性化のレベル

